

否定・強調・倒置・省略の見取り図

年 組 番 名前 _____

この紙のゴール：強調構文を見分け、倒置と省略を使い分けて書ける

入試へ挑むクラス 偏差値のめやす 60以上 強調構文と形式主語の見分け、省略までを運用します（確認は4択）

気づき AとB、日本語にするとどちらも「みんなが賛成した、とは言えない」に見える。でも意味は正反対。どこがちがう？（30秒考えて、となりの人と答え合わせ）

A	Not all of the members agreed with the plan.
B	None of the members agreed with the plan.

決め手はnot のとなりに何があるかです。Aは not と all がとなり合っているので、打ち消しているのは「賛成した」ではなく「全員」のほう—だから「全員ではない＝何人かは賛成した」になります。Bの none は数そのものをゼロにしているので、賛成した人はいません。日本語の「みんな～ない」はどちらにも読めてしまうので、英語では形で決める必要があります。

整理 この単元で扱う6つのわざ（何を前に出すか、何を打ち消すか）

形	作り方	表すこと	例文
部分否定	not + all / every / always / both	全部が～というわけではない	Not all birds can fly. すべての鳥が飛べるわけではない。
全否定	no + 名詞 / none of ... / never	ひとつも～ない	None of my friends knew it. 友だちはだれも知らなかった。
強調構文	It is + 強調語 + that ...（人は who も）	～なのは…だ	It was my sister that called. 電話をくれたのは姉だった。
語で強調する	do / does / did + 原形 / the very + 名詞	本当に～なのだ／まさにその	I do want to go with you. 本当にいっしょに行きたい。
否定語句の倒置	否定語句 + 疑問文の語順	打ち消しを前に出して強める	Never have I been so nervous. あんなに緊張したことはない。
省略	繰り返しを省く（助動詞は残す）	言わなくても分かる部分を落とす	He can ski, but I cannot. 彼はスキーができるが、私はできない。

問われるのは名前ではなく何が前に出ていて、代わりに何が起きているかです。①部分否定は not のとなりを見る。②否定の副詞（句）が文頭なら、うしろは疑問文の語順（否定語が主語に入っているときは倒置しない）。③強調構文は It is と that を外して、もとの1文に戻るかで見分け—前に出るのは主語や目的語だけでなく、副詞のはたらきの語句のこともある。④省略しても助動詞は残す。⑤ do の強調は really で置きかえられるだろうか—置きかえると何が変わるかを1つ考えてきてください（ドリル発展版 大問3）。

確認 () 内から正しいものを選ぼう。 **知識・技能**

- (1) I (am / very / much / do) want to join the team, but I have no time.
- (2) (Never / Sometimes / Not / No) have I seen such a long line.
- (3) Little (I knew / knew I / did I know / I did know) that he was watching me.
- (4) Only after the game (I noticed / did I notice / I did notice / noticed I) how tired I was.
- (5) My brother enjoys horror movies, but I (not / am not / don't likes / do not) .

否定・強調・倒置・省略の見取り図 | 解答とつまずきポイント

確認の解答

(1)	do	動詞を強めるのは do + 原形 。思いこみの打ち消しによく使う。
(2)	Never	否定語句を文頭に出したら、うしろは 疑問文の語順 (have I seen)。
(3)	did I know	Little も否定の仲間。前に出したら did + 主語 + 原形 にする。
(4)	did I notice	Only + 語句 が文頭に出たときも倒置。「～して初めて…した」の形。
(5)	do not	繰り返しの enjoy them は省き、 do は残す 。一般動詞なので am not は使えない。

つまずき① 部分否定を全否定として読む

not のとなりに all / every / always / both があれば、打ち消されているのは**その語**です。「全部ではない」だけで、「ゼロだ」とは言っていません。

× Not everyone in the club came, so the meeting was canceled. → ○ No one in the club came, so the meeting was canceled.

「全員が来たわけではない」なら何人かは来ているので、中止の理由にならない。ゼロなら No one。

つまずき② 日本語の「みんな～ない」をそのまま All ... not で書く

All the students did not pass. はどちらにも読めてしまうので避けます。「何人かは受かった」なら **Not all**、「ゼロ」なら **None of** と、最初から形で言い分けてください。

× All the members of my class did not agree with the plan. → ○ Not all the members of my class agreed with the plan.

「全員が賛成したわけではない」と言いたいなら Not all を文頭へ。ゼロなら None of the members agreed.

つまずき③ 否定語句を前に出したのに語順を戻さない

前に出すには代償が要ります。**Never / Little / Rarely / Only after** を文頭に置いたら、うしろは**疑問文の語順**に。

× Never I have heard such a strange story. → ○ Never have I heard such a strange story.

Never を前に出した代わりに、have を主語の前へ。倒置しないなら I have never heard ... と元の位置に戻す。

つまずき④ 「レースに勝ったのは健だ」を形式主語で書く

見分けは **It is** と **that** を外して、**もとの1文に戻る**か。戻れば強調構文で、前に出ていたのは主語や目的語のことも、副詞のはたらしの語句のこともあります。戻らなければ形式主語です。

× It was surprising that Ken won the race. → ○ It was Ken that won the race.

ng も正しい英文だが、意味は「健が勝ったのは驚きだった」。It is と that を外すと Ken won the race に戻らない=形式主語。前に出したいのが Ken なら、that のうしろを won the race (主語の欠けた形)にする。

つまずき⑤ 省略しすぎて助動詞まで落とす

繰り返しになる部分は省けますが、**残すべき目印まで落とすと文が立ちません**。一般動詞なら do / does / did、be動詞なら be、助動詞があればその助動詞までを残します。

× My brother can swim well, but I not. → ○ My brother can swim well, but I cannot.

swim well は省けるが、can は残す。一般動詞の文なら but I do not の形になる。

授業のひとつ 前日にこの紙を配り、確認問題まで解いてこさせる反転で使えます。授業はドリル発展版 大問3の検討と、入試英文から強調構文と形式主語の it を拾い分ける練習に充ててください。

